「延べ竿イスズミ計画'19」

実 施 結 果 報 告 書

令和元年 6 月

波止釣りチーム レッドマリン

はじめに

本報告書は、令和元年 5 月～6 月にかけて実施した「延べ竿イスズミ計画'19」により得られた成果・調査結果等についてとりまとめをおこなったものである。

報告：
ししょー(波止釣りチーム レッドマリン)

波止釣りチーム
レッドマリン

目次

第1章　計画概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-1
1.1　計画内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-1
1.2　実施位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-2

第2章　実施結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2-1
2.1　主な成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2-1
2.2　釣行記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2-2
2.3　実施内容の整理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2-7
2.4　その他調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2-9

第3章　今後の計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3-1

巻末
1. 仕掛け図

1　計画概要

本章では「延べ竿イスズミ計画'19」の計画概要について記載する。

1.1　計画内容

本計画は、H30 年 6 月に実施した「延べ竿イスズミ計画」の繰り越し計画であり、今年度も同様の趣旨に基づき期間を定め実施した。

本計画は、延べ竿により大型海水魚を釣り上げることを目的とした一連の計画の一環として行われているものであり、過年度の同種の計画としては「延べ竿ドブシーバス計画(H29)」、「延べ竿タチウオ計画(H30)」を当チームで実施している。

本計画では対象魚を奈半利町加領郷漁港内に生息するイスズミとし、リールを一切用いない延べ竿仕掛けにより釣り上げを試みる。目標寸法は「2019 年 5 月 20 日より適用する記録魚認定基準」より、イスズミの大型認定寸法である 40cm 以上とした。釣法はウキ釣りを基本とし、サシエ・コマセともに一般的なオキアミを用いることとした。

また本計画に付随して、同漁港内に生息する他の大型魚を釣り上げることを目的とした「奈半利町甲地区底物調査」を実施した。本調査は船竿と両軸リールを用いたミャク釣りにより、底層の大型魚を狙うものである。エサは食用の殻付きバナメイエビを使用した。

1.2　実施位置図

図 1.2.1 に本計画の実施位置図を示す。

図 1.2.1　実施位置図(加領郷漁港)

2　実施結果

本章では「延べ竿イスズミ計画'19」の実施結果について記載する。

2.1　主な成果

本計画の実施回数は全 5 回となったが、残念ながらいずれもイスズミを釣り上げるまでには至らず、計画の目的は達成できなかった。しかしながら、本計画の実施を通して得られた調査結果等からは、今後の参考となる多くの方針を見出すことができたほか、記録すべき他魚の釣果もあった。

イスズミ以外の主要な釣果としては、6 月 23 日実施時に釣れた口太グレ(33cm)が挙げられる。図 2.1.1 に釣果写真を示す。

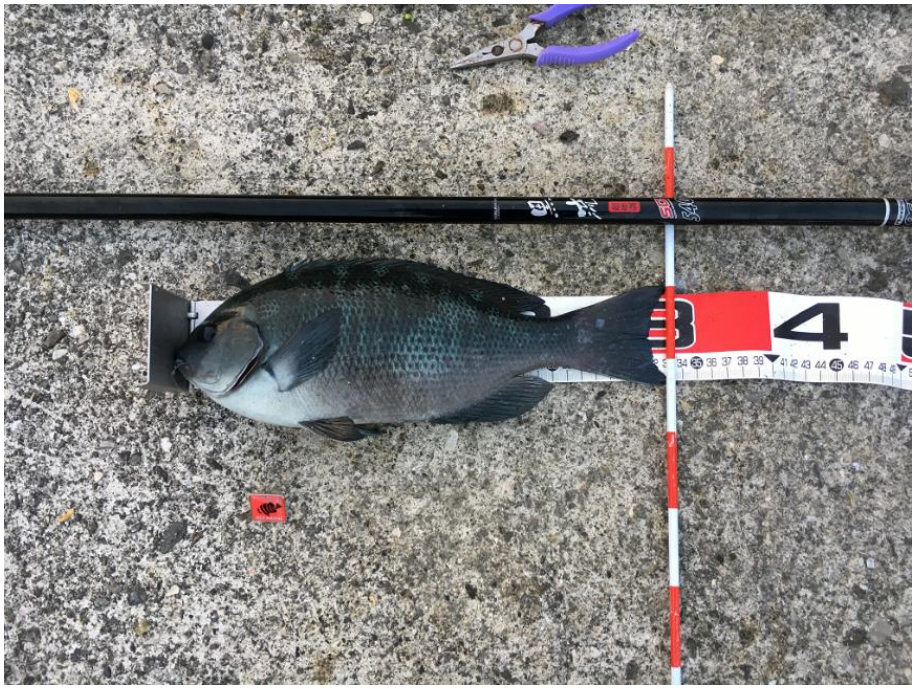


図 2.1.1　口太グレ(33cm、6 月 23 日)

2.2　釣行記録

以下に、令和元年 5 月～6 月にかけての全 5 回の釣行記録を、当チームのサイトにて公開しているものより抜粋して示す。なお、本計画に付随して実施した「奈半利町甲地区底物調査(以下、単に底物調査)」に関わる釣果がある場合は、区別して記載した。

2.2.1 第 1 日目(5 月 11 日)

日時	2019/05/11 5:30～13:00
潮況	小潮 上げ→下げ
水温	17℃(6:00 頃の釣り座表層水)
仕掛け図	巻末に示す。
釣果	10cm 程度のアジ、シマアジ、ガガネ等

6:00 頃から釣りを開始した。7:00 過ぎになると、コマセを食べにくるイスズミの姿が確認できるようになった。8:00 過ぎには一時 20～30cm クラスのグレの姿も見られたが、9:30 頃を境にイスズミもグレも姿を消してしまった。

その他の現地確認結果としては、アジ、シマアジの他にもイワシ類やサバ、カマスの幼魚の回遊が確認できた。 岸壁際には 30cm クラスのタカノハやアイゴが単体で確認できた。ネンブツダイなどのエサ取りも非常に多い。イスズミをヒットに持ち込むために有効としているウキ下 4m 程度以上の深ダナでは、エサ取りのアタリはいくらか軽減した。

今回は途中から中層に目視できていたイスズミが姿を消したことが結果に大きく響いたと考えられる。あくまで中層で活性の高いイスズミが見えている状況でないと、底層でのヒットに持ち込むことも厳しい印象だった。ただ、潮位が下がってきた昼ごろに底層に何度か大型魚の姿が見えたこともあり、浅いタナに大型魚が見えないことがただちに底層でのヒットが見込めないと判断させるものではない可能性もわずかながら見える。今後、サシエにオキアミ以外のエサを採用することも一考の余地がある。

2.2.2 第 2 日目(5 月 18 日)

日時	2019/05/18 5:00～12:00
潮況	大潮 下げ
水温	20℃(5:00 頃の釣り座表層水)
仕掛け図	巻末に示す。
釣果	なし

潮周り等期待できる要素は多かったが、 魚の活性はむしろ先週より低下しており、残念ながら成果は上がらなかった。 釣りの最中にもっと周辺の状況を確認する時間をとる癖をつけるようにする。

2.2.3 第 3 日目(6 月 1 日)

日時	2019/06/01 4:30～10:00
潮況	中潮 下げ
水温	21℃(4:30 頃の釣り座表層水)
仕掛け図	巻末に示す。
釣果	20cm 程度までのツバス 3 匹

今回は釣り座を港内突堤(西側)の先端に移し釣りを行った。海の状況は前回までより確実によくなっている。 5:05 頃に 20cm クラスのグレがコマセに群がる様子が確認できた。その後も断続的に姿を見せる。 6:05 頃には目測 50cm クラスのイスズミが確認できた。コマセに反応し中層から表層付近まで活発に動く。 8:40 分頃にはイスズミが群れでコマセに寄るようになった。十数分程度でこのような回遊を繰り返していると思われる。

今後回遊の合間の時間帯にはコマセをアミ姫に変えて、オキアミの消費量を抑えるものとする。ハリス号数について、現在使用中の 5 号は過大である可能性があるため、次回釣行時には第 1 案として 4 号に落とす、もしくは第 2 案として 3 号を使用可能な仕掛けに変更するものとする。

また、今回詳細不明ではあるが、釣り座付近の岸壁際にアカメと思われる目測 80cm クラスの魚影を 3 匹と、別にコショウダイ系の魚と似た体型をした 60cm クラスの魚影を 1 匹確認した。イスズミやイシダイを遥かに凌ぐ魚が別に港内にいることが分かったこと、また、イスズミだけに傾倒し他の対象魚を全く無視することは限られた釣行回数を考えると 惜しいことから、次回からは岸壁付近を狙った宙釣りもしくはブッコミ釣りを置き竿にて並行して行うものとする。

2.2.4 第 4 日目(6 月 8 日)

日時	2019/06/08 5:00～11:00
潮況	中潮 上げ→下げ
水温	22℃(4:50 頃の釣り座表層水)
仕掛け図	巻末に示す。
釣果	イスズミ計画：なし 底 物 調 査 ：クエ 35cm、ガガネ 20cm

今回よりメインの延べ竿ウキ釣りに加えて、船竿+両軸リールタックルによる岸壁際のミャク釣りを置き竿にて実施することとした(奈半利町甲地区底物調査)。前日の大雨により奈半利川河口からの水潮が流入していたと考えられ、ウキ釣りのほうは釣りにならなかった。今後は、前日までの降水状況も考慮し釣りを行うかどうか判断するものとする。一方底付近を狙ったミャク釣りでは、早朝に 20cm 級のガガネが釣れたほか、35cm のクエがあがった。岸壁際を探る釣りは、かえって地元の釣り人は行っていないと考えられることから、今後とも開拓の余地があるといえる。

2.2.5 第 5 日目(6 月 23 日)

日時	2019/06/23 4:30～9:00
潮況	中潮 上げ
水温	24℃(9:00 頃の釣り座表層水)
仕掛け図	巻末に示す。
釣果	イスズミ計画：口太グレ 33cm 底 物 調 査 ：オニカサゴ 27cm(大型)

前週は釣行予定日前日の大雨により、再び水潮の流入が懸念されたため釣行を見送った。港内にカマスが回遊してきており、日の出前からすでにカマス狙いの多数の釣り人が竿を出していた。5:15 頃に延べ竿ウキ釣りのコマセにイスズミが寄るようになり、その後納竿時まで 30～40cm 級のグレも交えつつ姿を見せ続けた。直後の 5:20 頃に、置き竿のミャク釣りタックルに 27cm のオニカサゴが喰ってきた。前回の小クエに続き、まだまだこの種の釣りに関しては場荒れしてないと思われる。オニカサゴのヒットに続く形で、延べ竿ウキ釣りのほうには 33cm のグレが喰ってきた。岸壁より 2m 程離れた位置を流している最中でのヒットだった。

今回もイスズミは掛けられなかったものの、ようやく 30cm を超える良型のグレを釣ることができ、計画の成果となったといえる。今年の第 1 日目～3 日目の釣行時には、ウキ釣りのハリスは 5 号を使用しており、今回 3 号ハリスを使用して初めて良型グレのヒットに持ち込めたことから、やはりハリスの太さが喰いに影響していた可能性がひとつ高まったといえる。昨年の本計画実施時には 3 号および 4 号ハリスでイスズミと思われる大型魚を掛けており、やりとりをした際の感覚からは、3 号ハリスが号数を落とせる限界であるとみられる。まずは魚を掛けることを最優先とし、引き続きクッションゴムを取り入れた仕掛け形式を継続し、今後はハリス 3 号を基本として釣りを行うものとする。

現在カマスが回遊中であること、また今後はメジカの回遊も予想されることから、日の出前の早朝に現地入りをしても延べ竿で安全にやり取りが可能な釣り座を確保できない可能性が高い。よって、今年の延べ竿イスズミ計画は基本的に今回の釣行をもって終了とし、調査結果等を整理したうえで、7 月に予定されているチームの遠征釣行時に可能であれば同様の釣りを実施するものとする。

2.3　実施内容の整理

本節では前節の釣行記録の要約および補足を行い、釣行ごとの方針の変遷等について整理する。

本計画着手時の実施方針は、H30 年度の「延べ竿イスズミ計画」実施結果を踏まえ、以下の通りであった。

(1) 表層の警戒心の高いイスズミは無視し、下層のイスズミを狙う
(2) 強力な引きに耐えるべく、ハリス号数を 5 号まで引き上げる
(3) 太ハリス使用となるため鈎は環付きとし、結束に細心の注意を払う

(1)は、H30 年度にウキ下 3 ヒロ程度での鈎掛かりが相次いだことより、今年度の基本方針とした。(2)は,H30 年度に 3 号ハリスを大型魚に切られていることからこのような方針とした。(3)は、H30 年度にハリス号数を 4 号に引き上げた際に同様の理由で環付き鈎を使用したこと、また、その際に結束が適切でなく、大型魚を掛けた際に結束が解けたことが原因とみられるバラシがあったことからこのような方針とした。

本計画の第 1 日目～第 3 日目の実施結果から、5 号ハリスが過大であり、そのために木っ葉グレ等の他魚の喰いも悪くなっている可能性が考えられた。そのため、第 4 日目からはクッションゴムを組込んだ、3 号ハリスを使用可能な仕掛けを用いることを基本方針とした。第 4 日目は水潮の流入により釣れなかったと考えられるが、第 5 日目に 3 号ハリス仕掛けにて 33cm の口太グレが釣れている。

第 5 日目の 33cm の口太グレは、2.5 ヒロ程度のウキ下で岸壁際より 2m 程のやや岸寄りの位置を流していた際に鈎掛かりしたものである。イスズミではないとはいえ、ウキ下 4m 前後での良型魚の鈎掛かりが再び確認できたことから、今後も下層の魚を狙う方針は有効でると考えられる。また、この口太グレが岸壁に近い位置で鈎掛かりしたこと、魚の活性が低かった第 2 日目においても岸壁際にはイスズミの姿が確認できたこと等から、岸壁に近い位置に仕掛けを入れることも有効策であると考えられる。

以上より、本計画着手時の実施方針は、終了時には次頁のように修正されている。

(1) 表層の警戒心の高いイスズミは無視し、下層のイスズミを狙う
(2) 強力な引きに耐えるべく、ハリス号数を 5 号まで引き上げる
(3) 太ハリス使用となるため鈎は環付きとし、結束に細心の注意を払う

↓

(1) 表層の警戒心の高いイスズミは無視し、下層のイスズミを狙う
(2) 鈎掛かりを最優先とし、3 号ハリスを使用可能な仕掛けを用いる
(3) 太ハリス使用となるため鈎は環付きとし、結束に細心の注意を払う
(4) 沖側だけでなく、状況により岸壁際にも仕掛けを入れる

赤字：変更方針　青字：追加方針

2.4　その他調査結果

本節では前節までに記載した以外の現地調査結果等について、釣行記録より要約してとりまとめる。

本計画と平行して第 4 日目より実施した「奈半利町甲地区底物調査」においては、第 4 日目には 35cm の小クエ、第 5 日目には 27cm の良型のオニカサゴが釣れた。図 2.4.1～2.4.2 に釣果写真を示す。

今年度は第 1 日目の 5 月 11 日にはアジ、サバが確認できたが、第 2 日目の 5 月 18 日からは姿を確認できなかった。第 3 日目の 6 月 1 日からは 20cm 程度までのツバスの回遊が見られた他、イスズミ、グレの活性も上昇傾向をみせた。また、この日に数体のアカメの魚影を確認した他、岸壁際にコショウダイ系の大型魚(詳細不明)が確認できた。第 4 日目の 6 月 8 日は前日までの豪雨により奈半利川からの水潮の流入があったとみられるが、港内の岸壁際表層にタカベの回遊が確認できた。第 5 日目の 6 月 23 日にはカマスが回遊していたほか、水温が高くなったためイスズミやグレの数も全 5 回の実施の中で最も多かった。また、今年度は H30 年 6 月 16 日時点で確認できたメジカの回遊はまだみられなかった。

図 2.4.1 クエ(35cm、6 月 8 日)

図 2.4.2 オニカサゴ(27cm、6 月 23 日)

3　今後の計画

今年度の「延べ竿イスズミ計画'19」では、目的とする 40cm 以上のイスズミを釣ることができなかったため、本計画は再度来年度に繰り越しとし、引き続き同時期に実施するものとする。来年度着手時の実施方針は、2 章 3 節にて整理した今年度の最終実施方針を基本とする。

また、本計画に平行して実施した「奈半利町甲地区底物調査」についても、今後港内のより広範囲で実施することにより、本年度と同程度以上の釣果が見込まれる可能性が十分あると考えられることから、来年度も引き続き実施していくものとする。

巻 末 資 料

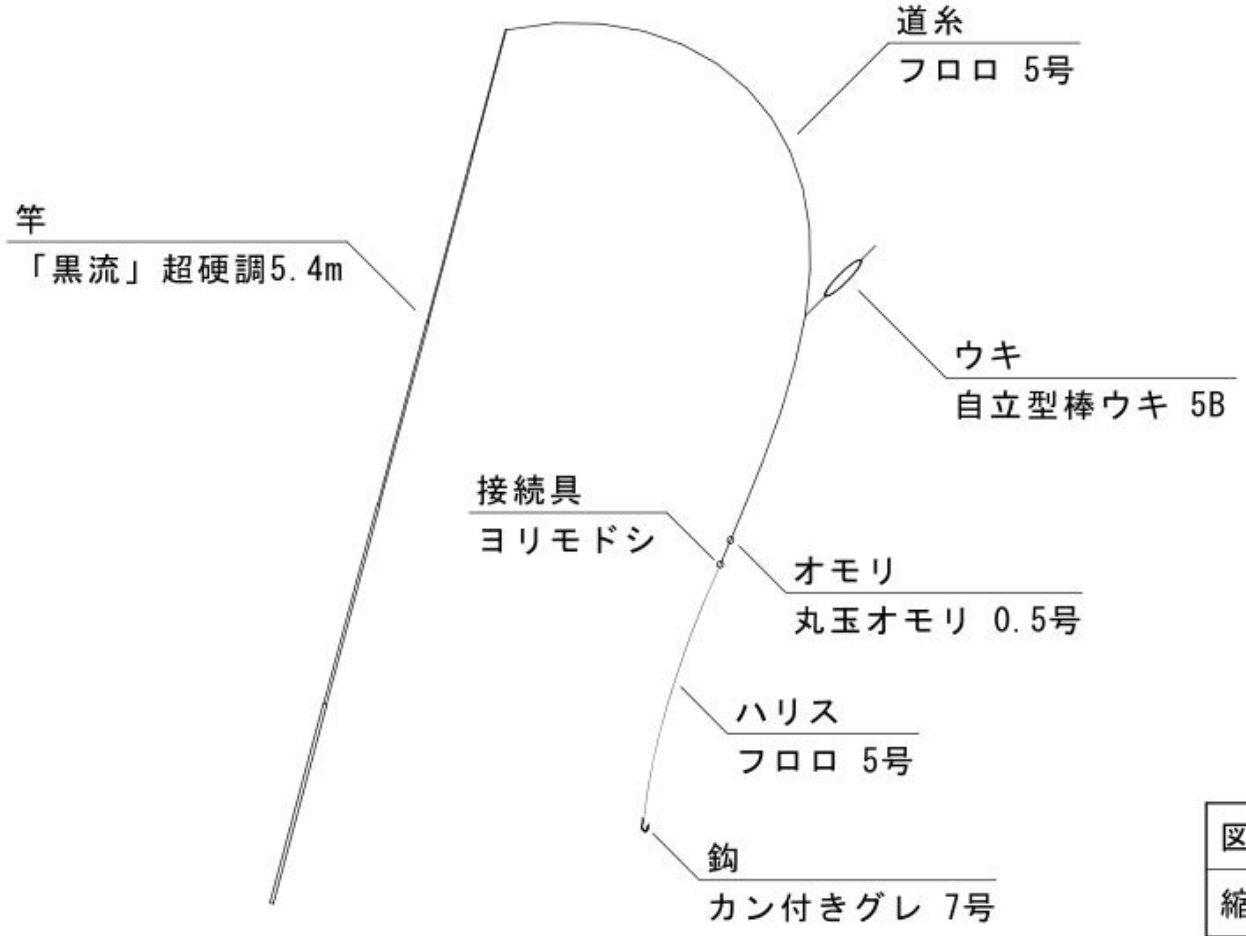
巻末１ 仕掛け図

・第１日目～第３日目仕掛け図・・・・・・・・・・・資 1-1

・第４日目～第５日目仕掛け図・・・・・・・・・・・資 1-2

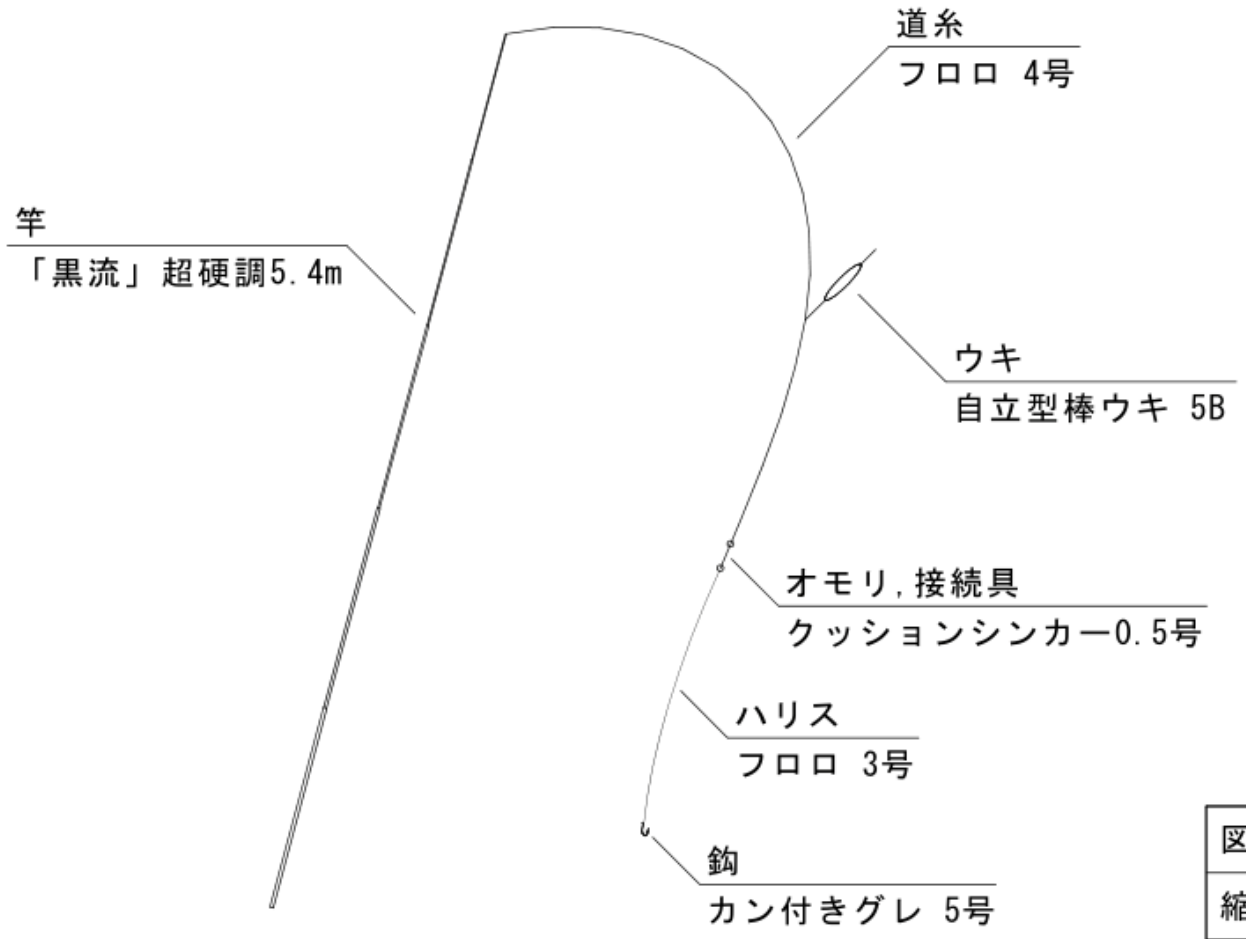
・奈半利町甲地区底物調査仕掛け図・・・・・・・・・資 1-3

仕掛け図



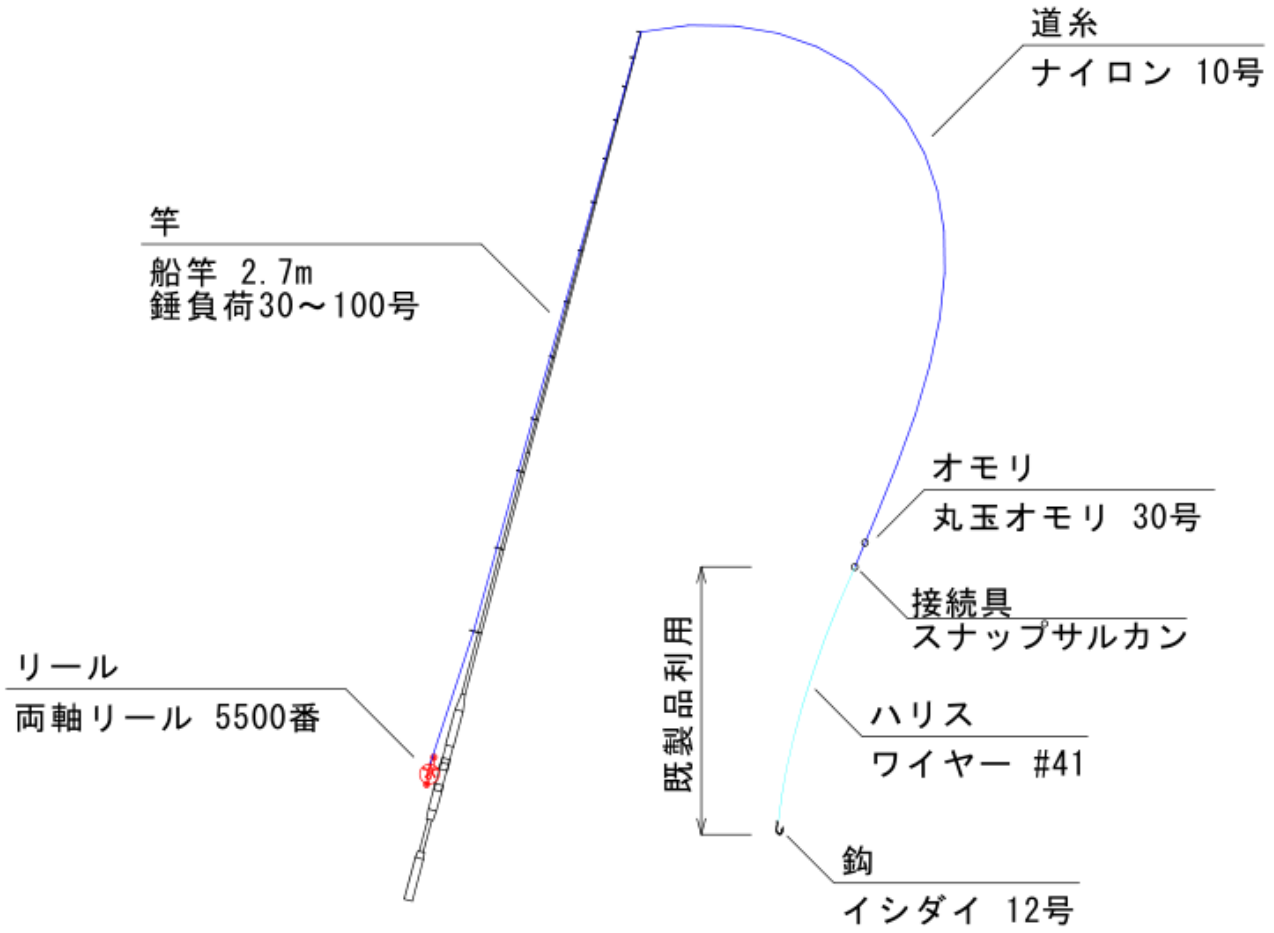
図面名	仕掛け図
縮　尺	-
計画名	延べ竿イスズミ計画
図面番号	
作　成	波止釣りチーム レッドマリン

仕掛け図



図面名	仕掛け図
縮　尺	-
計画名	延べ竿イスズミ計画
図面番号	
作　成	波止釣りチーム レッドマリン

仕掛け図



図面名	仕掛け図
縮　尺	-
計画名	延べ竿イスズミ計画内 奈半利町甲地区底物調査
図面番号	
作　成	波止釣りチーム レッドマリン